

令和4年度 家政学部 前期授業アンケート結果の講評

講 評 者

ライフスタイル学科長/家政学専攻長：丹羽誠次郎

管理栄養学科長/管理栄養士専攻長：竹村ひとみ

こどもの生活学科長/こどもの生活専攻長：加藤万也

〔1〕アンケート実施について

後期授業 14～15 週目に家政学部全科目について授業評価アンケートを実施した。

アンケート回収率については下記の通りであった。

	実施率	回答率 (%)	回答率 (最高) (%)	回答率 (最低) (%)
家政学部 (全体)	91.7	80.8	100	14.3
ライフスタイル学科 /家政学専攻	97.4	68.9	100	14.3
管理栄養学科/管理 栄養士専攻	95.1	87.9	100	72.9
こどもの生活学科/ こどもの生活専攻	94.8	80.0	100	34.6

〔2〕授業における教員に対する評価

〔質問項目〕

質問1. 教員は授業時間分の学修内容を実施していた。

質問2. 教員の説明は明確で理解しやすかった。

質問3. 教員は質問や相談ができるように配慮していた。

質問4. 教員は学生の理解を確かめていた。

質問5. 教員は、学生が社会人基礎力を活用できる授業を展開した。

質問6. 教員は、シラバスに一致した学修内容を明確にし、授業に取り組んでいた。

質問7. 教員は、授業の成績評価基準を明確に説明していた。

質問8. 教員が作成した予習・本時・復習シート (PCR シート) は、学修内容の理解に役立った。

質問1-8の選択肢：「5 強くそう思う」「4 ややそう思う」「3 どちらともいえない」「2 あまりそう思わない」

「1 全くそう思わない」

〔アンケート結果〕

	家政学部 (全体)	ライフスタイル学科/ 家政学専攻	管理栄養学科/ 管理栄養士専攻	こどもの生活学科/ こどもの生活専攻
質問1	4.35	4.19	4.40	4.43
質問2	4.22	4.06	4.23	4.32
質問3	4.24	4.16	4.24	4.33
質問4	4.24	4.14	4.25	4.32
質問5	4.22	4.07	4.27	4.33
質問6	4.28	4.11	4.35	4.35
質問7	4.23	4.03	4.27	4.32
質問8	4.16	3.94	4.24	4.29

質問1～8 授業における教員に対する評価について

〔ライフスタイル学科/家政学専攻〕

「授業における教員に対する評価」はおおむね4.0ポイント前後を得ている。これは前学期（2021年度後期）とほぼ同様の数値であり、依然として全項目において他学科／専攻の平均値に及ばない。質問項目別では質問8「教員が作成した予習・本時・復習シート（PCRシート）は、学修内容の理解に役立った」が、最もポイントが低く、これは質問9以降の「学生自身の学修に対する評価について」の結果にも関連する。授業への取り組みの見直しを学科／専攻教員に求めたい。

〔管理栄養学科/管理栄養士専攻〕

「授業における教員に対する評価」について概ね良好な評価を得た。前年度前期と同程度か若干高い評価を得た。中でも、質問1「授業時間分の学修内容の実施」質問6「シラバスに沿って学修内容を明確した授業への取り組み」が高い評価を得た。一方、質問2「説明は明確で理解しやすい」がやや低い評価であったことから、受講生の理解度を確認しながら授業を展開していくことが必要である。

〔こどもの生活学科/こどもの生活専攻〕

授業における教員に対する評価については、他学科と比較しても芳しいものである。そして質問8のPCRシートに関しての数値が低いのは、学科教員の中でのPCRシートに対する認識が緩いのだろうと思われる。後期はPCRシートという名称でなくとも、予習復習シートであることをしっかり学生に伝え、この数値をもっと上げていきたい。

〔3〕学生自身の学修に対する評価について

質問9. あなたは、予習・本時・復習（PCRシート）に記載されている社会人基礎力の能力を発揮して、予習・復習に取り組んだ。

質問10. あなたは、毎週シラバスの学修内容を確認して、予習を実施した。

質問11. あなたは、毎週シラバスの授業内容を確認して、復習を実施した。

質問12. あなたは、予習をすることで学修内容への理解が深まった。

質問13. あなたは、復習をすることで学修内容への理解が深まった。

質問14. あなたは、この科目に対して予習（事前学修）時間をどのくらい費やしましたか。平均した1回当たりのおよその時間（10分単位程度で）で教えてください。

質問15. あなたは、この科目に対して復習（事後学修）時間をどのくらい費やしましたか。平均した1回当たりのおよその時間（10分単位程度で）で教えてください。

質問16. あなたは、シラバス記載の学修の到達目標が達成できた。

質問17. この授業は、あなたにとって総合的に有意義で満足できるものであった。

質問18. 教員からの学修支援に満足している。

質問19. あなたは、この授業を通してシラバスの「科目の概要」に記載されているディプロマポリシーに到達した。

★質問9-13、16-19の選択肢：「5 強くそう思う」「4 ややそう思う」「3 どちらともいえない」「2 あまりそう思わない」「1 全くそう思わない」

★質問14、15の回答：記述式（数値入力）

〔アンケート結果〕

	家政学部 (全体)	ライフスタイル学科/ 家政学専攻	管理栄養学科/ 管理栄養士専攻	こどもの生活学科/ こどもの生活専攻
質問 9	4.08	3.82	4.24	4.20
質問 10	3.94	3.66	4.11	4.08
質問 11	3.96	3.69	4.11	4.09
質問 12	4.05	3.73	4.17	4.22
質問 13	4.08	3.79	4.22	4.23
質問 14	35.32	20.79	41.46	41.49
質問 15	41.35	27.26	57.76	41.42
質問 16	4.08	3.93	4.05	4.21
質問 17	4.18	4.04	4.18	4.31
質問 18	4.17	4.01	4.15	4.29
質問 19	4.01	3.86	4.02	4.12

質問 9～19 学生自身の学修に対する評価について

〔ライフスタイル学科/家政学専攻〕

「学生自身の学修に対する評価について」も「授業における教員に対する評価」同様、すべての項目において3学科/専攻中、最低のポイントにとどまっている。予習・復習に要している時間についてもシラバスで示している時間に足りていない。予習・本時・復習シートの見直しとともに、授業内でのシラバスの活用を積極的に行い、15週全体にわたる学修の見通しのもとに、予習・復習に取り組めるよう教員側からの指示、指導を徹底する必要がある。

ライフスタイル学科/家政学専攻は、他の2学科/専攻と異なり、資格取得をベースとしたカリキュラム構成ではない。そのため、個々の科目に対する受講目的・目標を明確にし、授業に臨むことができるような更なる工夫を検討しなければならない。

〔管理栄養学科/管理栄養士専攻〕

「学生自身の学修に対する評価」について概ね良好な評価を得た。中でも、質問9「PCRシートに記載されている社会人基礎力を発揮した予習・復習への取り組み」、質問13「復習による学修内容への理解の深まり」について高い評価を得た。前年同様、予習に比べ復習により多くの時間を費やしていた。また、前年度前期に比し5分程、平均予習・復習時間の増加がみられた。一方で、質問16「シラバス記載の学修の到達目標を達成できた」、質問19「シラバスの『科目の概要』に記載されているディプロマポリシーに到達した」の評価がやや低い。到達目標に達成していないと評価した学生、科目の特性を踏まえた対策を講じる必要があると考える。

〔こどもの生活学科/こどもの生活専攻〕

学生自身の学修に対する評価については、社会人基礎力という名称に直接関与しなくとも、自身の中での重要な学修と位置付けて取り組んでいることがわかる。また事前学修・事後学修において十分な時間を費やしていることが判明した。

〔4 学修行動について〕

質問 20. この授業の学修行動において、必要性はあったが発揮「できなかった」能力はどれですか。（複数回答あり）

★質問 20 の選択肢：1 主体性 2 働きかけ力 3 実行力 4 課題発見力 5 計画力 6 創造力 7 発信力
8 傾聴力 9 柔軟性 10 状況把握力 11 規律性 12 ストレスコントロール力

〔アンケート結果〕

	発揮できなかった能力			
家政学部（全体）	無選択(24.3%)	計画力 (22.2%)	働きかけ力 (21.9%)	課題発見力 (20.2%)
ライフスタイル学科/家政学専攻	働きかけ力(26.9%)	計画力 (25.3%)	主体性(23.8%)	発信力・無選択 (22.1%)
管理栄養学科/ 管理栄養士専攻	発信力(22.7%)	計画力 (22.5%)	創造力・ストレス コントロール 力(20.2%)	課題発見力 (19.2%)
こどもの生活学科/ こどもの生活専攻	無選択(30.2%)	ストレスコン トロール力 (25.5%)	計画力(21.8%)	働きかけ力 (19.8%)

質問 20 学生自身の学修行動に対する評価について

〔ライフスタイル学科/家政学専攻〕

必要性はあったが発揮「できなかった」能力上位4項目のうち「働きかけ力」「計画力」については前学期と同様だが、今期は「主体性」と「発信力」を挙げた学生が多くなっている。とくに「主体性」の発揮を必要と考えながら「できなかった」と考える学生が23.8%と、学修に前向きになっていない状況の改善は学科／専攻の問題である。

〔管理栄養学科/管理栄養士専攻〕

必要性はあったが発揮できなかった能力として、上位に「発信力」「計画力」が挙げられた。「発信力」は毎学期20%以上の学生が挙げる本学科/専攻に特徴的な要素の1つである。反対に、前に踏み出す力である「主体性」「働きかけ力」「実行力」は上位4項目には挙げられず、多くの学生が発揮できていると考える。

〔こどもの生活学科/こどもの生活専攻〕

ここでの数値については、学生個々によって様々であるから、一概に「○○力」という様に断定することは難しいが、多くの学生がそのように考えているという特徴を示しているため、この結果を有効に活用すべく学科会議での資料として検討していきたい。